



教育理念

薬学は現代医療の基盤をなす医薬品等の開発や適正使用に関する学問であり、薬学人は長い伝統を紡ぐとともに絶えず自己変革して新たな知の領域を開拓し、また、その豊かな人間性をもって地域社会・国際社会で活躍することが必要です。本学部は、先端的医療薬学研究と先端的創薬科学研究の遂行を通じて薬学の発展を担う人材を育成することによって、人類の健康と社会の持続的発展に貢献し、国立大学薬学部としての使命を果たすことを理念としています。

求める学生像

1. 高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に 数学・英語・理科（特に化学）に高い学力を有する人
2. 化学や生命科学を積極的に学ぼうとする人。医療や薬を必要とする人たちの立場を真に理解し医療の質の向上と薬学研究的進歩発展に貢献したいと考える人
3. 大学院に進学して 最先端の創薬科学を学び、国際的に活躍できる創薬研究者・技術者、次世代医療開発者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者等の職能人となることを志す人。あるいは、高度な知識と技術を身につけ、チーム医療の中で科学的観点から意見が言える専門性の高い薬剤師となることを志す人

学部長メッセージ

広島大学薬学部には、6年制の薬学科と4年制の薬科学科があります。

薬学科では、医療チームの一員として目の前の患者さんのために治療に貢献できるだけでなく、新しい薬物療法を開発する能力を持った薬剤師の育成を行っています。

薬科学科では患者さんのために地球の裏側まで届くような新しい医薬品の開発を担い、グローバルに活躍できる創薬研究者を育成します。そのため、薬科学科の卒業生のほぼ全員が大学院に進学し、研究能力を磨きます。

先輩たちとともに本学部で学び、次世代を担う薬剤師や創薬研究者を目指しましょう。

薬学部長 黒田 照夫



特色的な教育プログラム

【薬学科】薬学科では1～2年次で基礎薬学の学問基盤と知識を習得し、3年次以降に薬についての正確な科学的・医学的知識と研究マインドを身につけます。高い専門性を備えた薬剤師や薬学研究者となることを目指し、チーム医療の中で科学的観点から意見が言え、薬の適正使用に責任を持つ薬剤師としての能力を修得します。本学科修了が薬剤師国家試験の受験資格となり、合格すると薬剤師として働くことができます。より高度な職能を修得するため大学院医系科学研究科の博士課程（4年制）に進学する道も開かれています。

また、本学部は文部科学省支援事業に採択され、「連携で地域医療を支える薬学教育の構築～中高大接続から大学・行政・病院薬局連携でシームレスに地域を支えるヒロダイ薬学教育拠点～」を実施中です。

取得可能免許・資格：薬剤師国家試験受験資格

進路：製薬企業、化学製造企業、環境分析企業、食品関連企業、官公庁、大学教員、など

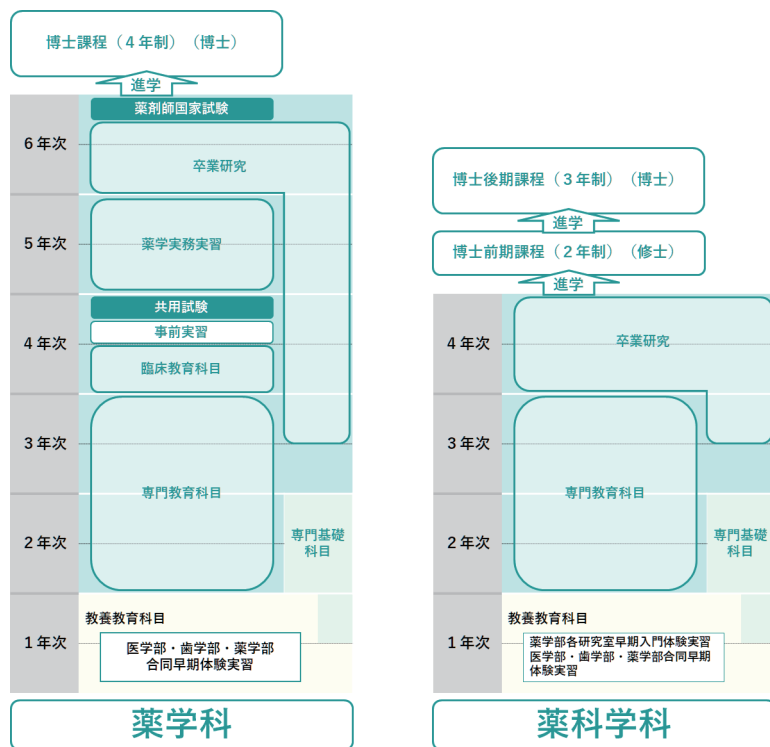
【薬科学科】薬科学科では1～2年次で基礎薬学の学問基盤と知識を修得する一方、3～4年次に最先端の研究に触れることにより高い研究マインドを養います。医薬品の正確な化学的・医学的知識を背景に、医療の質向上と薬学研究的進歩発展への貢献を目指し、国際的に活躍できる創薬研究者・技術者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者等の職能人となる能力を身につけます。卒業生は製薬・化学等の企業や公的機関の研究者等として社会に貢献していくことになります。より高度な職能を修得するため、大学院医系科学研究科の博士課程前期（2年制）・後期（3年制）への進学と博士号（薬科学）取得を推奨しています。

取得可能資格・免許：高等学校教諭一種免許状（理科）＊教職に関連した特定科目の取得が必要

進路：製薬企業、化学製造企業、環境分析企業、食品関連企業、高校理科教員、官公庁、大学教員、など



薬学部入学から医系科学研究科へ 各学科のカリキュラム図



大学院生への支援制度

【修士課程学生】

修士課程学生には Teaching Assistant (TA) 制度が用意されています。

【博士課程学生】

博士課程学生の生活費、研究費が支援され、研究に専念するための制度が複数用意されています。

博士課程学生には Research Assistant (RA) 制度での支援もあります。

卒業研究

3年次後期という比較的早期から自らが選択した研究分野を専門としている研究室に所属し、演習と実習が中心のカリキュラムで、その分野に関する最先端の知識と技術を学ぶ機会が得られます。



カリキュラムの特色

6年制の薬学科では、専門知識と知恵を併せ持つ薬剤師の育成を、4年制の薬科学科では、世界的な視野を持つ創薬研究者の育成を、それぞれの目的としています。そのために、1年次後期から専門科目を履修するなど、早期に専門教育を開始します。また、少人数教育に力を注ぎ、3年次後期から所属する各研究室は、1学年5人以内で構成します。さらに、医学部や歯学部と連携した授業も取り入れて、チーム医療への意識も育んでいます。

入学試験制度

広島大学光り輝き入試 総合型選抜

II型 薬学科(定員:5名) / 薬科学科(定員:2名)

国際バカロレア型 薬学科 / 薬科学科(定員:若干名)

一般選抜(前期日程)

薬学科(定員:33名) / 薬科学科(定員:17名)

一般選抜(後期日程)

薬科学科(定員:3名)



最新入試情報(薬学部 HP)

学生生活

キャンパス: 1年次から霞キャンパスで教養科目も含めた講義を受けます。早期に薬学専門科目の講義も始まります。

部活動・サークル活動: 霞キャンパスの学生が所属する霞医系部活動と薬学部生が中心の薬学部サークルがあります。

留学・国際交流: 1、2年生を対象とした留学(2週間程度~3-6ヶ月の長期派遣)、国際交流プログラムが用意されています。

学生サポート: チューター制をとっており、薬学部教員が講義や学生生活の助言を定期的に行い、研究室配属まで伴走します。

キャリア教育セミナー

薬学部では、早い時期から将来の職業について考える機会として、全学年を対象にしたキャリア教育セミナーを実施しています。製薬会社、化粧品会社、食品会社、調剤薬局、病院薬剤師の現状や、実際の職種などについて各企業の方に説明していただきます。個別に質問できるブースで、学生と企業との活発な意見交換もでき、就職意識が高まります。



凌雲棟(霞キャンパス内新講義棟)



患者志向型合宿勉強会

全国薬害被害者団体連絡協議会の協力を得て、薬害被害者と学生が薬害について討論し、その苦しみを共感的に理解し、救済に向けた方策・態度を醸成することを目指し、薬害の防止に向けて、どのように行動するべきか学生が提案することを目的としています。



広島大学薬学部が取り組む研究内容

創薬合成化学研究室（熊本卓哉 教授、中嶋龍 助教、白井孝宏 助教）

医薬品のほとんどは有機化合物であり、その中の多くが有機化学の手法によって合成されています。我々の研究室では、実践的な創薬化学研究、有用な生物活性をもつ天然物の合成研究、新規反応の開拓を通して、新たな医薬品や機能性化合物の創出を目指した研究をおこなっています。

医薬分子機能科学研究室（長瀬健一 教授、木下恵美子 助教）

現在、抗体や細胞などが難治性疾患に対する治療薬として用いられています。私たちは、機能性高分子を用いてタンパク質、細胞を分離して治療薬として用いる技術を開発しています。また、機能性分子を用いて生体内のタンパク質を分析する技術を開発しています。

微生物医薬品開発学研究室（黒田照夫 教授、熊谷孝則 准教授、森田大地 助教）

抗菌薬が効かない薬剤耐性菌は世界における喫緊の課題です。すぐに手を打たないと、抗菌薬が役に立たない時代がやってくるかもしれません。私たちは、この薬剤耐性菌がどのように発生して増えていくのかを明らかにし、その対策を考えようとしています。また耐性菌にも効果がある医薬品の開発も進めています。

分子システム薬剤学研究室（内田康雄 教授、川見昌史 助教、橋本洋佑 助教）

中枢関門は、脳の機能を正常に保つ重要な場所です。中枢関門の異常によって脳疾患が発症・進行します。私たちは最新のタンパク質科学技術によってこの異常の分子機構を一挙に解析し、新薬開発で狙うべき根本原因を解明しながら、中枢関門創薬という新しい創薬フィールドを開拓しています。

薬物療法開発学研究室（横大路智治 准教授、荻野龍平 助教）

有効かつ安全な治療法が確立されていない疾患の治療には、疾患の病態を理解し、病態に基づいた新しい治療法の開発が不可欠です。私たちは、食物アレルギーや乾癬などの免疫・炎症・アレルギー疾患に着目し、その病態の解明と新たな治療法・予防法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

細胞分子生物学研究室（田原崇俊 教授、高橋陵宇 准教授、山本佑樹 特任助教）

細胞がなぜ老化するのかを理解し、健康寿命を延ばすことを研究テーマとしています。また、細胞老化の仕組みを利用することで無限に増殖を繰り返すがん細胞に寿命を与えることができる新しい抗がん剤の開発も行っています。遺伝子を標的とできるマイクロ RNA を利用して開発した抗がん剤の臨床応用を目指します。

生薬学研究室（松浪勝義 教授）

漢方薬などに使用される生薬や、未解析の植物、海洋微生物、植物内生菌の代謝産物について天然物化学の手法を用いて、活性成分の単離・精製、化学構造解析を行い、培養細胞、ゼブラフィッシュ、線虫などのモデル生物など使った活性評価により、新規生物活性化合物の発見を目指しています。

治療薬効学研究室（小澤孝一郎 教授、柳瀬雄輝 准教授、吉井美智子 助教）

アレルギー、炎症や老化などの身近な疾患や症状が引き起こされるメカニズムを明らかにして、治療薬の新しい標的分子を見つける研究を行っています。また、既に臨床で使われている治療薬の副作用を軽減するため、副作用が引き起こされるメカニズムを明らかにする研究にも取り組んでいます。

創薬標的分子科学研究室（野村渉 教授、濁川清美 助教、松本大亮 助教）

ゲノム編集技術は医療や創薬、育種などさまざまな分野に応用が期待されている最新の技術です。特に医療分野において重要となる安全性を高めるための新たなゲノム編集技術に関する研究と得られた知見から派生する遺伝子機能、細胞機能の制御法の開拓を目指した取り組みを行っています。

生体機能分子動態学研究室（古武弥一郎 教授、大黒亜美 特定准教授、宮良政嗣 助教）

身の回りに存在する化学物質はわれわれの健康に影響を与える可能性があります。本当に有害なのはどの物質で、それがなぜ有害なのかはほとんど明らかになっていません。そこで有害性が疑われる化学物質の脳を中心とした健康影響とそのメカニズムを明らかにするべく研究を行っています。

薬効解析科学研究室（森岡徳光 教授、中島一恵 助教、中村庸輝 助教）

慢性痛や精神疾患、アルツハイマー病など、薬が治療に十分に貢献できていない病気が数多くあります。私たちの研究室では、そのような病気が発症する引き金となる分子を探し出し、それらをターゲットとする薬や治療法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

核酸分析化学研究室（紙谷浩之 教授、河合秀彦 准教授、鈴木哲矢 助教）

損傷核酸による変異の誘発が癌の原因となっています。その変異の誘発機構と、私たちに備わっている変異を抑制する機構（DNA 修復）の理解を深めて、制癌を目指しています。また、人工ヌクレアーゼを用いずにゲノム編集を行う遺伝子修復法を開発して、癌をはじめとする疾病の克服を目指しています。

臨床薬物治療学研究室（猪川和朗 准教授、池田佳代 助教）

薬物治療法の個別最適化および新規開発を目的に、治療標的となる血液・体液・組織・臓器など臨床検体中の薬物濃度を測定したうえで、生理学・薬理学をふまえた様々なモデリング & シミュレーションを行って、治療法の薬物動態学・薬力学を定量的に解析・予測・評価しています。

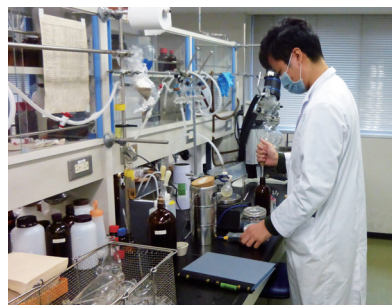
病院薬剤学研究室（松尾裕彰 教授、埜越崇範 助教）

医薬品は病気を治す目的で使用されますが、効果が不十分であったり、患者さんに好ましくない有害な副作用をもたらしたりすることがあります。個々の患者さんにとって最も有効かつ安全な薬物治療の提供を目指して、医薬品の適正使用や薬剤師介入の効果に関する研究に取り組んでいます。

学生実習（2年生後期から開始）

病院実習（薬学科5年生）

有機合成化学研究の様子



社会で活躍する卒業生の声

女性の全ライフステージにおける健康を支援

波多野（埴田）真由子さん（薬学科卒）

現職：株式会社エバルス

私は医薬品卸で婦人科領域のスペシャリスト（ウィメンズコーディネーター）として医療機関や行政への情報提供を行う業務に携わっています。女性特有の疾病（月経困難症、不妊症等）が活躍の障壁となっている現状を変えるため、女性の健康リテラシー向上を目指した啓発活動、従業員を対象とした月経困難症の治療支援といった取り組みを企業として進めています。現在の役割を通じて、活気あふれる日本社会と次世代への貢献を果たしていきたいです。



薬事規制の立場で公衆衛生を守る

今田 理裕さん（薬学科卒）

現職：独立行政法人医薬品医療機器総合機構

私は、医薬品医療機器総合機構（通称Pmda）という公的機関で、医薬品メーカーへの品質管理調査を実施しています。国内外問わず出張ばかりで責任も重く、楽な仕事ではありませんが、研究時代の実験知識を生かすことができ、かつ国民の健康への寄与を感じられるとてもやりがいのある仕事です。

広島大学薬学部では、教授陣から手厚い研究指導を受けることができ、そこで培われる論理的思考力はあらゆる業種で活躍する上での武器になると感じます。



大学時代からの研究が新薬に繋がる

川崎 志織さん（薬科学科卒）

現職：塩野義製薬株式会社

疼痛治療薬開発のための薬理研究に従事しています。私は学生時代から疼痛に関する研究をしていました。研究で躓くことは多々ありますが、学生時代に学んだ疼痛の基礎知識は勿論、セミナーや講義で先生方に鍛えて頂いた論理的思考力や課題解決力を生かして乗り越えることができます。今の自分が学ぶ知識や力は、確実に未来の自分の力に、そして薬がなくて困っている患者さんの役に立ちます。ぜひ広島大学で素敵な仲間と良く学び、大学生生活を楽しんでください。



臨床像を意識して創薬シーズを見出す

佐藤 史爽さん（薬学科卒）

現職：住友ファーマ株式会社

私は製薬会社で創薬研究に従事しています。業務で必要となる知識・技術・論理的思考力は、学生時代の研究活動で鍛えることができました。また臨床実習で得た経験を基に、実際の患者様を想像しながら研究を進めることができます。広島大学は研究室当たりの人数が少ないですが、その分先生方が指導して下さる時間が多くなるため、成長しやすい環境が整っています。ぜひ広島大学で多くの事を学び、時には遊びも楽しみながら学生生活を充実させていってください。



卒業・修了後の進学・就職状況（2023年度）

薬学科 卒業生（2024年3月）

- 10名：病院 薬剤師（広島大学病院、広島赤十字・原爆病院 など）
- 24名：調剤薬局・ドラッグストア（総合メディカル、日本調剤 など）
- 2名：製薬企業（科研製薬、エーザイ）
- 1名：進学（香川大学）
- 3名：その他（富士レボ、IQVIA サービスーズ ジャパン）

薬科学科 卒業生（2024年3月）

- 21名：進学（広島大学大学院）
- 2名：その他（デジタルフォレン、トーク）

大学院医系科学研究科 博士課程前期修了生（2024年3月）

- 11名：製薬企業（大塚製薬、協和キリン、小野薬品工業 など）
- 6名：その他（ニプロ、シスメックス、イーピーエス など）
- 6名：進学（広島大学大学院 博士課程後期）

広島大学霞キャンパスへのアクセス

住所 広島県広島市南区霞 1-2-3

最寄り駅 JR 広島駅

交通手段 JR 広島駅（南口）より路線バスで約 15 分

広電バス、広島バス、広交バス（まちのわループ右回り）

大学病院・旭町・県病院・広島港方面（"大学病院前"下車）

個別相談会を受け付けています！

広島大学薬学部では、高校生及び受験生を対象として個別相談会を受け付けています。

Web 会議ツール「Teams」を用いたオンライン相談に加え、直接大学にお越しいただくことも可能です。

入試のこと、大学での学びのこと、学生生活のこと等、皆様の疑問に直接お答えいたします！

広島大学薬学部 HP から詳細を確認のうえ、お申込みください。



薬学部
個別相談会

